



大関浩美（おおぜき ひろみ）

麗澤大学国際学部および同大学院言語教育研究科日本語教育学専攻教授。早稲田大学第一文学部（西洋史学専修）卒業。お茶の水女子大学人間文化研究科博士前期課程・後期課程修了。博士（人文科学）。アークアカデミー等の日本語学校非常勤講師、東京大学留学生センター特任講師を経て、現職。専門は日本語教育・第二言語習得（特に文法習得）。趣味はミュージカル鑑賞（劇場通いは年間70回以上）。

#### 主な著書

2022年『日本語受身文の新しい捉え方』（共著、くろしお出版）

2015年『フィードバック研究への招待』（編著、くろしお出版）

2010年『日本語を教えるための第二言語習得論入門』（くろしお出版）

2008年『第一・第二言語における日本語名詞修飾節の習得過程』（くろしお出版）

#### 主要論文

大関浩美（2020）『中級日本語学習者の名詞修飾節使用における母語の影響』プラシャント・バルデシ、堀江薫編『日本語と世界の言語の名詞修飾表現』43-56. ひつじ書房

大関浩美（2016）「名詞修飾節の習得」森山新・向山陽子編『第二言語としての日本語習得研究の展望』201-229. ココ出版

Ozeki, H. (2016) Corpus-based second language acquisition research. M. Minami (Ed.), *Handbook of Japanese Applied linguistics*. (pp.313-334). Berlin: Mouton de Gruyter.

大関浩美（2014）「言語習得データから日本語名詞修飾節を考えるーフレーム意味論の観点からー」『日本認知言語学会論文集』14, 248-260.

Ozeki, H. (2011) The acquisition of relative clauses in Japanese. E. Kidd (Ed.), *The acquisition of relative clauses: Processing, typology, and function*. (pp.173-195). Amsterdam: John Benjamins.

大関浩美（2010）「日本語学習者はどのような外の関係の名詞修飾節を使っているか」『言語

- 文化と日本語教育』39号, 50-59. お茶の水女子大学日本語文化学会
- Ozeki, H. & Shirai, Y. (2010) *Semantic bias in the acquisition of relative clauses in Japanese. Journal of Child Language, 37*, 197-215. (Cambridge University Press)
- 大関浩美 (2008) 「学習者は形式と意味機能をいかに結びつけていくか —初級学習者の条件表現の習得プロセスに関する事例研究—」『第二言語としての日本語の習得研究』11号, 122-140.
- Ozeki, H. & Shirai, Y. (2007) Does the noun phrase accessibility hierarchy predict the difficulty order in the acquisition of Japanese relative clauses? *Studies in Second Language Acquisition, 29*, 169-196.
- 大関浩美 (2004) 「日本語学習者の連体修飾構造習得過程 —修飾節の状態性の観点から—」『日本語教育』121号 36-45
- 大関浩美 (2003) 「中間言語における variation とプロトタイプ・スキーマ —日本語学習者の「～とき」の習得過程に関する縦断的研究—」『第二言語としての日本語の習得研究』6号 70-89. 第二言語習得研究会